China (Sinensia, vol. 7, no. 2, p. 113 127)
1933 **山口鐵男** ——サソリモドキの小觀察 (鹿兒島高等農林學校博物同志會會報, vol. 3, no. 11, p. 75—76)

寫 眞 解 說

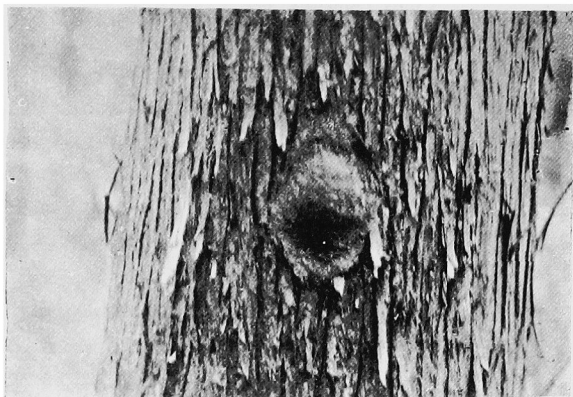
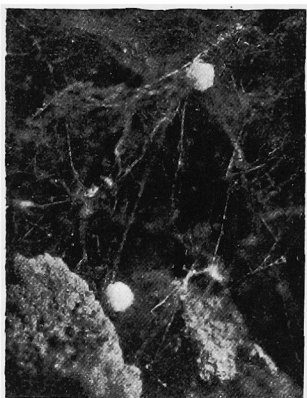
細 野 善 燃

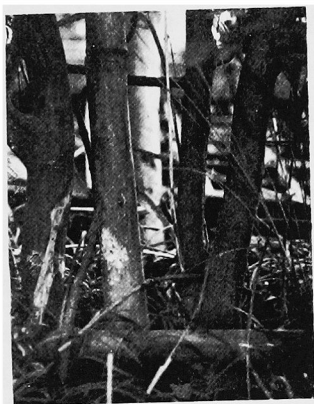
1 ヨツデゴミグモの網 (38. 9. 18). あまり人の踏込まぬ路傍喬木下の叢間。中心のリボンは大抵の場合一回足らず，或は一回半位の正圓形に近いが，これはハート形をしてゐて美しかつたから撮つた。斜右上へ出てゐるやゝ太い一本の糸は，撮影の準備中邪魔になる笹の葉を除いた時に，蛛が驚いて一旦隱れた爲に往復して出來たもの。

1. ヨツデゴミグモの網

2 コケオニグモの卵嚢 (40. 4. 7). 枝下5m以上ある杉林。夏季この下には4～5尺位に羊齒や笹が繁つて藪蚊の跳梁がひどい。本年は4/3この蛛の造網を初めて見たが，卵嚢のあることを信じてはいつて見るとこれがあり，同一樹幹の反對側にもう一個あつた。私はこの蛛の野外の卵嚢は三個見たゞけであ

2. コケオニグモの卵嚢

るが，何れも杉の樹幹にあつて製作當初の茶褐が濃褐に變じ，更に雨露のため銅銷色の苔粉がついてゐるから見分け難い。出盧は樹肌との隙間からするのではないかと思ふ。測定の限度は長さが 75～88 mm，幅 35～51 mm であつた。この蛛種がキオピベツカウの犠牲になつて運搬されてゐる現場を見たことがある。

3 種不明の卵嚢 (38. 9. 29). 飼育瓶内。道路工事で積上げた土塊の中と，肥溜桶を抜いたあとの穴で得たが，♂が見付からぬので孵化出盧が解らない。同種の蛛は本年も 3/31 以來飼つてゐて，4/22，5/2 と二個の作品を掛けて見張りしてゐるが，寫眞の方は一昨年 8/11，8/16，8/29，9/5 と四個掛けた個體のものである。♀はその體の形狀，大きく，卵嚢の形と大きさなどオニグモモドキとよく似てゐるが，全身エナメル黑色で無紋。黑耀石のやうに美しい。蛛體の標本がないので査定の御依賴も出來ぬのは遺憾であるが，目下飼育中のものゝ自然死を待つて漬ける豫定である。卵嚢は最初ナフタリン玉のやうに純白で後いくぶん汚黄に變ずるが，オホヒメグモのそれのやうに顯著な突出部はなく，製作の初期に綾網へ

3. 種不明の卵嚢（飼育瓶内）

とりつけた天蓋の痕跡が僅かに殘る。卵塊は天蓋が出來上つて穀斗状になつたときに，之を斜に抱へて突然ドッと産み込み，すぐ被ひをかけて次第に厚くするが，糸疣を約 4 mm 位づつ着けては離し，着けては離し乍ら順次廻り，二時間ぐらいかかる。

4 ヂグモの脱糞 (40. 1. 5). 芝を張りつけた土坡上のマサキ生垣。根本には苔が生じてトタテグモの戸蓋がかなりある。が，4/29 の調べでは大小 7 個とも巣主がゐなかつた。寫眞で見るやうに袋巣は巣主が冬眠中のため枯凋してゐるし，脱糞も雨露が薄くなつてゐるがなかなか落ちぬものである。この蛛にミミズなど與へておいて待つと，一兩日のうちに此の放出をやるが，その魅力ある現場は見たことが無い。

4. ヂグモの脱糞

— 40. 5. 4 夜 —

アカオニグモの圓網

吉倉 眞

(樺太廳大泊中學校)

緒言

アカオニグモ *Araneus quadratus* Clerck は歐亞に廣く分布する蜘蛛の大形種で，樺太の各地にも普通に見出され，特に灌木を混えた草原に多數棲息する。著者は最近 3 ケ年間當地に於て本種の生態を調査し その知り得た生活史の大要に就ては既に本誌 Vol. IV, No. 2 に報告した。即ちアカオニグモは晩